

三田牛を育て守る人 X 市議会



三田と言えば?…「三田八景」「三田米」「キッピー、ハッピー」など、いろいろありますが「三田牛(肉)」と答える人も多いのではないのでしょうか。

テレビ番組でも度々紹介され、その美味しさには定評がありながら、知名度は、あと一歩というのがくやしところ。今回はその三田牛の知名度アップと流通の拡充に取り組む、三田肉流通振興協議会の皆さんに、広報委員会全員でお話をお聴きしました。

—— 三田肉流通振興協議会について教えてください。

石田会長: 三田肉流通振興協議会は昭和61年から組織化して活動しています。役員10名、理事12名、幹事2名、顧問2名、それと市長に名誉会長になっていただいています。また飲食店の会員さんが13店舗、販売店が28店舗、家畜商の方が4名と生産者が53名で組織しています。25年度はPR活動として、農業まつりや、味覚まつり、三田バルに参加させていただきました。26年度は他の会員も一緒にまわって市内の方にもっと協議会の活動を知ってもらいたいと考えています。



—— 三田肉の魅力とは?

廣岡副会長: 三田牛は、兵庫県内産の但馬牛を素牛とし、三田盆地特有の季節、朝夕の寒暖の差の激しい過酷な気候風土の中、力強い山々に濾過された上質の水を飲み、生産者が一日とて休むことなく真心を込めて育て上げた雌牛は、常温に触れればとろける独特の脂質と、のど越しの良い肉質と味わいを生み出します。よくどのようなPRをすべきか、など問われますが、例えば市長が三田肉を召し上がって「世界一美味しい」と言われるのを市民が聞いたら、そういう雰囲気になるでしょう。PRとはそういうものだと思います。私は天体一だと思っていますが(笑)。ときどき子どもさんが「三田肉について教えてください」と言って訪ねて来られますが、まずお肉を食べていただきます。三田肉の美味しさは食べてもらえばわかります。多くの人に、三田牛の価値を知ってもらい、しかるべき価格で流通させていくことが、生産者の生産意欲につながり、三田牛の知名度アップと流通促進が図れると考えています。



石田会長: 三田市の自然環境や肥育方法など他の牛と違うところを理解していただくと、美味しさの理由がわかっただけだと思います。

—— これからの展望は?

廣岡副会長: まず生産振興をする上での販路の拡



三田肉流通振興協議会副会長
ひろおか せいどう
廣岡 誠道さん



三田肉流通振興協議会会長
いしだ かずお
石田 操雄さん



三田肉流通振興協議会副会長
みぞはた すずむ
溝畑 進さん

「三田牛は天体一」

大、多角化が必須です。ですから、三田の生産者の肥育する牛の輸出等も視野に、生産から流通までを安定させ、三田牛の価値と生産者のご苦勞と価格の整合性をとって行くことが生産者の振興に繋がり、若い後継者に生産業が生業として成り立つということをアピールできるのではないかと考え取り組んでいます。

溝畑副会長: 生産者の立場から言わせていただくと、後継者問題は深刻です。仔牛の購入額は40~60万円、エサ代が30~40万円かかります。本来ならこの経費だけで一頭あたり70~100万円となるのですが、実際に売れる価格と比較したら厳しい現状で、辞めていく農家もあります。市のイベントなどでもっとPRして市民の方に三田肉の魅力を知ってほしいです。

—— 市内の学校給食でも食べられていますね。

溝畑副会長: もっと回数を増やして、食べて欲しいんですが、やはり価格の面でむずかしいようです。食べさせていただいたこともありますが、本当に美味しいですよ。

—— 年間の頭数が500頭というのは少ないのかなと思いますか?

溝畑副会長: 以前、市内に200頭規模の牧場をという話を持ち上がったことがありました。ぜひ市とJAの支援が必要な時ですので協力お願いします。



石田会長: 市内の生産者は一生懸命、思いを込めて牛を育てています。このことを皆さんにご理解いただきたいですし、私たちがPRをがんばって続けていきますのでよろしくをお願いします。

<定義> 但馬牛の子牛を、三田肉流通振興協議会が指定した生産農家で25ヶ月以上肥育し、三田食肉センターで解体処理した月齢30ヶ月以上の牛を「三田牛」と定義しています。

<市内の生産者数> 38戸

<年間の出荷頭数> 約500頭

<市の取り組み> 「家畜共進活動運営費」、「三田牛出荷奨励事業費」約1100万円を26年度予算に計上し、畜産農家への支援や、「三田肉・三田牛」のブランド力アップと流通安定化に取り組んでいます。

三田肉流通振興協議会

検索



三田肉はサシ(脂)がすぐに溶けて消えるほど上質。